

イカナゴ情報 No.2 (2021年6月)



令和3年6月18日

道総研

道総研稚内水産試験場調査研究部 (担当: 佐藤・堀本) Tel. 0162-32-7166

宗谷海峡周辺において主に沖合底びき網により6~9月に漁獲されるイカナゴ類¹の漁場環境調査の結果についてお知らせします。

海洋観測: オッター漁場の底層水温は昨年より低め、かけまわし漁場は昨年より沿岸は同程度で沖合は低め

宗谷海峡東方海域において6月14~16日に試験調査船北洋丸によるイカナゴ類漁場の環境調査を実施しました(図1)。

観測ラインの水温断面図をみると、ラインAではO15からIS01(水深30~40m)の海域は水温10℃以上となっており2020年度と同程度の水温でした。いっぽうでオッタートロールの主漁場となるIS02からIS04(水深50~80m)の海域での底層水温はおおむね4~6℃と2020年度と比較して低めで、近年で特に低かった2019年度よりは1℃前後高めとなっています。

ラインBでの、沿岸域の水温は12℃以上で2020年度と比べて高めとなっており、かけまわしの主漁場にあたるIS11からIS09(水深40~60m)の海域は6~11℃となっていました。漁場付近の水温は2020年度に比べて沿岸側(IS11付近)では同程度ですが、沖合(IS09付近)では2020年度より低めの傾向となっており、5月に引き続き沿岸と沖合との水温差が大きい状況です。

¹ イカナゴ類にはイカナゴ, オオイカナゴ, キタイカナゴの3種が含まれる (Orr *et al.*, 2015)

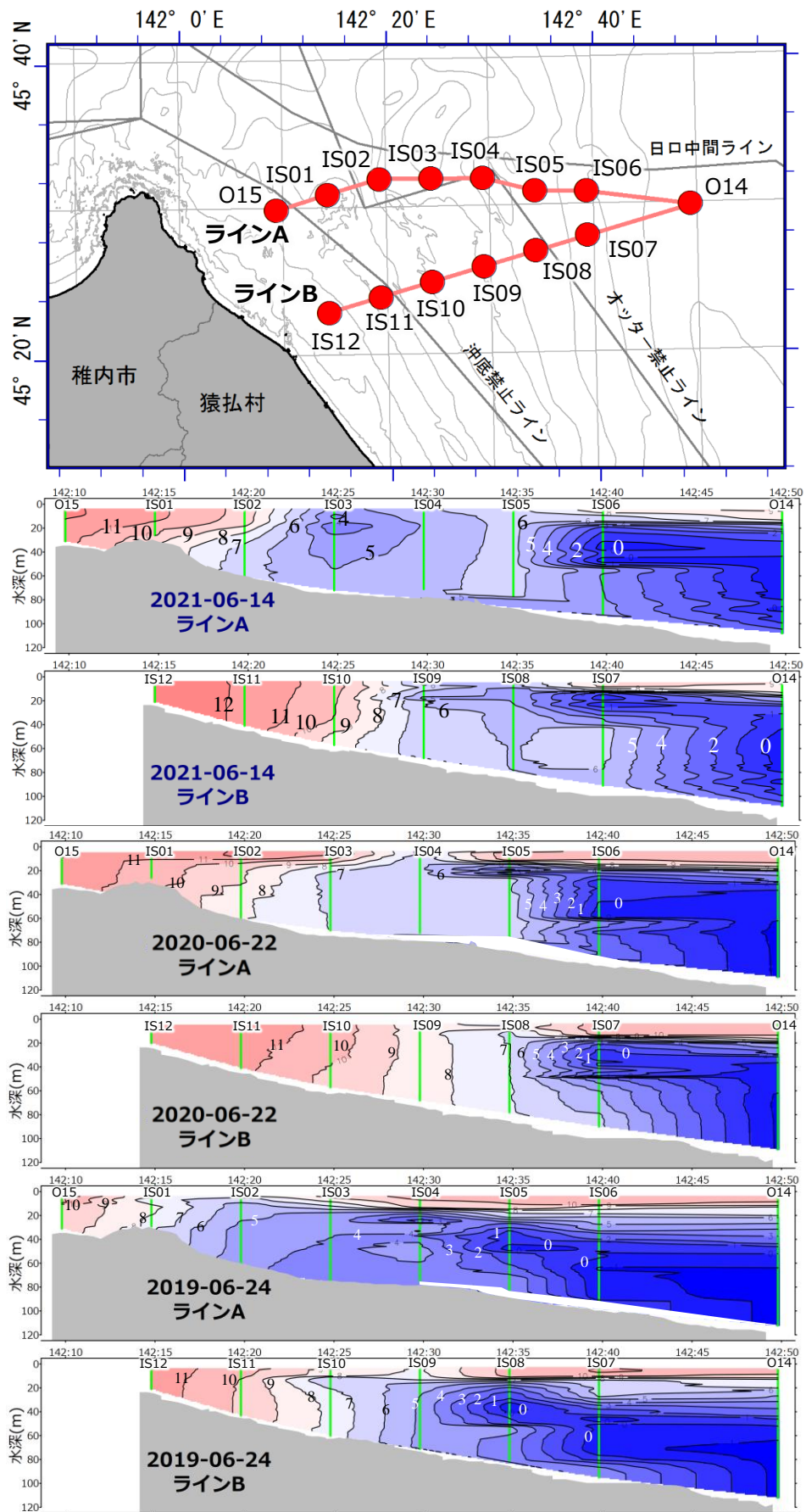


図1. 海洋観測・魚探観測ラインの位置と最近3年の水温断面図.

魚探観測：水深 50m 付近の海底付近および中層に複数の魚群反応を確認

海洋観測と同じラインで計量魚群探知機による魚群分布調査を実施しました(図2)。

ライン A では水深 50m の海底付近および深度 25m 付近の中層にイカナゴ類とみられる魚群反応が複数観測されました。水深 40m の海底付近にはニシンとみられる小規模な反応も観測されました。ライン B では水深 90m の海底付近にイカナゴ類とみられる魚群反応が少数観測されました。

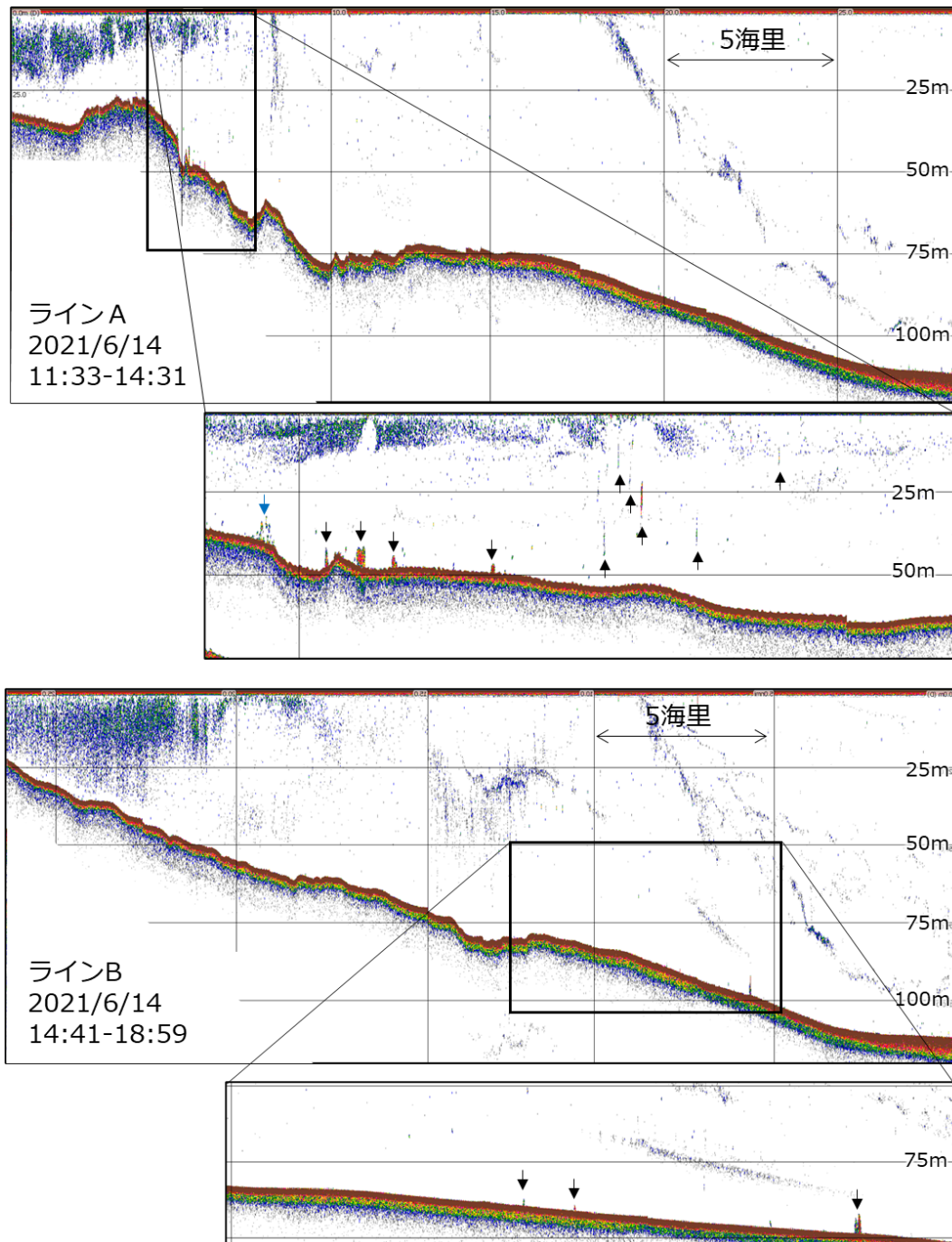


図3. 各観測ラインにおける魚探反応図. 各ラインの右下図は黒枠内の拡大図. イカナゴ類とみられる魚群反応を黒矢印, ニシンとみられる反応を青矢印で示した.